

騒音・振動の技術支援

－ 2017年度分－

大橋英明 石橋雅之 堀本泰秀 上治純子

1 目的

騒音・振動の規制に関する事務は市町村が行っているが、測定機器の操作に不慣れな事務系職員が担当となることが少なくない。そのため、当センターでは、市町村職員の騒音振動測定技術の向上を目的として、大気保全課と協力し技術講習会を実施している。また、市町村等からの問い合わせに応じ、個別の事例に関して、測定方法や機器操作等の技術的助言を随時実施している。

2 騒音・振動測定技術講習会

知識や技術の内容によって、初級と中級の2コースに分けて行っている。講習会で学んだ技術を測定現場で活用できるよう、両コースとも実際に市町村で所有している機器を使用する。2017年度は、初級を5月30日から3日間、中級を6月7日から2日間の日程で行った。過去5年分の参加者数を表1に示した。

表1 騒音・振動技術講習会の参加者数

年度	2013	2014	2015	2016	2017	合計	
参加者数	初級(人)	35	30	24	33	34	156
	中級(人)	16	6	9	8	8	47

2・1 初級

初級講習会では、初めて騒音振動業務に携わる職員を主な受講者として想定しており、騒音・振動に関する基礎的な講義の他、騒音計・振動レベル計の基本操作に関する実習を行った。

2・2 中級

中級講習会は、初級コースを受講済みで騒音振動業務を1年以上担当している等、ある程度経験を積んだ職員を主な受講者として想定しており、周波数分析や低周波音測定等、より高度な測定技術に関する実習を行った。

3 個別事例の技術支援

市町村は住民から直接苦情を受け付ける窓口となっており、日々対応が求められる状況にある。実際の苦情現場は机上の学習と異なり、様々な要因により測定上の制約がある等、条件が複雑な事例がある。そのため、当センターでは、前述の定期的な講習会の他に、市町村から依頼があった場合には、個別事例に対する技術支援を行っている。

2017年度中に市町村等へ行った技術支援は18件あり、その概要を表2に示した。相談の内容を騒音・振動・低周波音に分類すると、1件で複数に該当するものを含めて、騒音が12件、振動が3件、低周波音が5件であった。発生源別では、件数の多い順に、空調設備を含む設備に関するものが5件、次いで分別作業等特定の活動に関するものと自動車騒音がそれぞれ4件であった。技術支援の内容別では、測定器の使用法を含めた測定方法に関する助言と、測定結果の評価に関する助言がほとんどを占めており、それぞれ12件、5件であった。

表 2 個別事例に対する技術支援の概要(2017年度)

No.	市町村等	公害の種類			発生源の種類	技術支援の内容
		騒音	振動	低周波音		
1	我孫子市			○	民家	測定方法
2	君津市	○	○		自動車	測定値の評価方法
3	浦安市		○		自動車	振動の周波数分析
4	茂原市			○	不明	測定方法
5	茂原市	○			室外機	測定方法
6	市原市	○			工場(スクラップ分別)	測定方法
7	茂原市	○			工場(自動車解体)	苦情者による測定結果の評価 情報提供
8	我孫子市	○			工場(メッキ)	測定方法
9	館山市	○			航空機	測定方法, 情報提供
10	我孫子市	○			室外機	屋上設置の室外機の防音
11	市川市	○			自動車	道路の車線数の考え方
12	佐倉市	○		○	工場 (非鉄金属製品製造業)	測定方法
13	習志野市	○			ボイラー等	測定値の評価方法
14	船橋市			○	不明	測定・評価方法
15	君津市	○			工場(スクラップ分別)	測定方法
16	我孫子市		○		自動車	測定方法
17	流山市	○			不明	測定方法
18	船橋市			○	不明	測定・評価方法